

事例12

< 事例概要 >

出血

- ① 60 歳代、劇症肝炎、肝性脳症、持続血漿交換中の患者。
- ② 栄養管理のため、中心静脈カテーテルを留置予定。
- ③ BMI 26.1 kg/m<sup>2</sup>。脱水あり。血小板5 万台/ $\mu$ ℓ。抗血栓薬の服用は無。血漿交換の回路交換時に抗凝固薬を止めた状況で行った方がよいと考え、施行。
- ④ 右内頸静脈よりリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。超音波の短軸像でガイドワイヤーの位置を確認し、30 cm挿入。ダイレーター挿入時に体動あり、経皮的動脈血酸素飽和度（SpO<sub>2</sub>）が低下した。カテーテル挿入時に呼吸の不整、徐脈が出現し心肺停止。心肺蘇生を行ったが穿刺から約1 時間後に死亡。
- ⑤ 死因は、有効循環血液量が減少した状態でのガイドワイヤーによる上大静脈損傷による出血（疑い）。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。